

小田原教育

第127号

平成29年10月23日



アラカシ

- | | |
|----------|-----------|
| 1. クヌギ | 5. アラカシ |
| 2. コナラ | 6. シラカシ |
| 3. スダジイ | 7. ウラジロガシ |
| 4. マテバシイ | 8. イチイガシ |

ドングリ

ドングリは、今では、シイやカシの仲間の実をまとめた言い方で、代表的なのは、丸くて大きいクヌギのドングリです。小田原高校から城山公園にかけては、ほとんどのドングリが観察できます。この実から、コマややじろべえを作ります。シイの実は、食べることもできます。

目次

巻頭言	2
「一期一会」	教育研究所長 柳下 正祐
1 小さなころみ	3
「郷土読本「小田原」の改訂に関する研究」	千代中学校総括教諭 加藤 太一
2 学びの架け橋	4
プロジェクト研究「家庭生活部会」	
～全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力向上の研究～	下府中小学校教諭 細江 愛美
3 ある教室から	5
「一人一人を見つめる授業」	教育指導課指導主事 川口 宏美
4 研究所だより	
① おだわら未来学舎	6
② 教育講演会	7
③ 尊徳学習研修会	8
④ 今後の教育研究所事業	8



一期一会

教育研究所長 柳下 正祐



最近色々な会合の挨拶の中で、一期一会という言葉を使わせて頂いています。

一期一会とは、茶道に由来する日本の諺です。茶道に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを得て、亭主・客共に互いに誠意を尽くすこと。また、その心構えを意味するものです。

別の見方をすれば、人と人との出会いを大切に、関わりを大切すること。出会った者同士が、互いの良さを共感的に理解し、自己を磨き共に磨き合い高め合うことだと思います。

一期一会の考え方は、人との関わり(学び合う授業)を教育の基本に据え、学級・学校経営に取り組んできた私にとってとても大切な教えですが、その背景には、先輩の次のような言葉がありました。

『功成り名を遂げた人、一芸に秀でた人とも言えるが…

そういう人が一線から身を引くときに、異口同音に、「私は、多くの良い人たちと出会う機会に恵まれました。ここまで来られたのは、その人たちが私を育ててくれたお陰だと感謝しています。」と言う。

しかし、考えてみれば人の人生、そんなに都合よく自分を育ててくれる人ばかりと出会うことはあり得ない。

自分と出会い関わった全ての人たちの言葉に真摯に耳を傾け、その人たちの良さを共感的に理解し受け入れて、自分に生かす。出会った人たちの良さを、自分の血肉としてきたのだろう。

つまり人との出会い・関わりを大切に、聴く耳を持って人から学び良さを見極め自分を高めることができる人が、一芸に秀でるのだろう。』

教育者としてしっかり受け止めるべき考え方だと私は思っている…

今でも私の心にしっかりと刻み込まれている深く重い言葉です。この考え方は、日々の授業を中心とした学級経営にもとても重要な教えであり、基本であると思います。

これを日々の授業(聴くこと)に当てはめてみると、友達の考えを聴くときには、自分の考えを一度心の奥に伏せておいて、じっくり耳を傾け、しっかりと聴き取り共感的に理解する。その上で、自分の考えと比べることで、考えを深めたり、確信を持ったり、或いは軌道修正して新しい自分の考えを創り上げたりしていくことだと思います。つまり、話を聴くこと(人と関わること)は、新しい自分、成長した自分を創ることなのです。

聴く耳を大切に、他者と関わることで自分の力、成長を自分自身で創り出す。また、さらに高い目標に向かって他者との関わりを大切に、学び合い切磋琢磨することで共に成長していく。今の子ども達に最も必要な社会力、生きる力を育む基本となるものです。そして、これらの力を育むベースになるものが、一期一会の心だと思うのです。

一期一会の心を大切に、日々の授業を中心に子ども達と関わり対話をすることで、彼らの真の成長を支援することができる教師でありたいものです。

郷土読本「小田原」の改訂に関する研究

共同研究「郷土読本『小田原』」研究員

劔持公保（白山中学校） 山口勝也（城南中学校）

加藤太一（千代中学校） 角野 篤（城北中学校）

三城孝明（橘中学校）

1 はじめに

この郷土読本「小田原」は、中学校へ入学した市内の中学1年生に配布されている。昭和46年2月27日に初版を発行し、現在では、様々な方々の力を借り、35版となった。この郷土読本「小田原」は郷土の自然や歴史、現代の生活など、小田原のあらゆる知識が詰まっている。

しかし、生徒にとっては、配布されても授業で活用する場面が少ない。そのため、本研究では、生徒が活用しやすいよう改善をし、授業への活用はもちろん、自分の住んでいる地域を知り、『郷土愛』を深められるようなものにしたいと思い、現在の研究を進めている。

2 研究の目的

～身近に感じる郷土読本「小田原」へ～

郷土読本「小田原」の、生徒からの感想によると、「わかりにくい」「読みづらい」「堅苦しい」という意見が大半であった。研究員が改めて郷土読本「小田原」を生徒の目線で読んでみることから研究を始めた。中学生にとっては、わかりにくく、読みづらく、堅苦しい。また、社会科の教材と違い、縦書きのスタイルが読みづらさの要因のひとつであろうとも気がついてきた。縦書きから横書きへ、A5サイズからB5サイズに変えるだけで、随分と親しみやすいものへと変貌していく。伝わりやすい表現や、カラー写真の導入によって、より生徒が親しみやすい郷土読本「小田原」にしていきたいと考えている。

次に、授業で活用できる場所の提示を研究している。その多くは、小田原の歴史につ

いての内容が中心となる。例えば、近年発掘調査が進んできた遺跡（羽根尾貝塚、中里遺跡など）から、1万年続いた小田原の縄文時代や、大陸から人々が渡来してきて、わが国にクニと呼ばれる小国が誕生してきた頃の、弥生時代の小田原について。あるいは、律令国家の時代。日本という統一国家の枠組みの中に置かれた頃の小田原。または戦国時代。戦国大名と呼ばれた地方領主の一人である北条早雲と北条家の小田原支配について…などから、郷土を紐解くヒントを、この郷土読本から得られるように活用方法を提示していく研究を進めている。また、地図やグラフを活用し、地理的分野や公民的分野で、小田原の地理と地誌、また、政治経済について活用していく方法を研究している。

もちろん、自然地理的なことから理科や文学的な事柄から国語科など、各教科で活用することができる。各教科の授業で活用してもらうことにより、生徒へより身近に小田原を感じてもらいたい。

3 おわりに

本研究は、2年目を迎えた。この郷土読本「小田原」は、社会科だけでなく、各教科や総合的な学習の時間に活用できるものである。1月に予定している公開研究会では、社会科の授業での活用方法だけでなく、参加者とともに各教科での活用方法を話し合う時間を設け、郷土読本「小田原」を多く活用してもらえよう協議していく。生徒が私たちの住む小田原について身近に感じてほしい、『郷土愛』を深めることができるよう努めていき

学びの架け橋



プロジェクト研究「家庭生活部会」

～全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力向上の研究～

プロジェクト研究「家庭生活部会」 研究員

細江愛美（下府中小学校） 田中 靖（富士見小学校）

小林祐介（城山中学校） 大島友紀（鴨宮中学校）



1 はじめに

全国学力・学習状況調査の本市の結果より分析された課題のひとつとして、家庭での時間に使い方が挙げられる。家庭学習を行う時間は、全国平均を下回り、ゲームやスマートフォンにかける時間は、全国を上回っている。家庭での過ごし方を改善することで学力向上につながると考え、家庭生活部会で研究を行っている。

2 主な研究内容

小田原市の現状から、テレビやゲーム、スマートフォン等に費やす時間の長さが、家庭学習の時間に影響を与えているのではないかと考えた。そのため、まずは自分の生活リズムを客観視することが必要であると考え、「生活リズムチェックシート」（下図）を作成し、各研究員の学校で2度試行し、より効果的なシートの作成とその活用法を探った。

3 成果と課題

シート工夫点としては、児童生徒自身が自らの生活を分析する上で、時間の使い方を視覚的に把握できるようにした点である。日頃の生活習慣を振り返る上で、自らの時間の使い方に意識を持つ児童生徒が多く見られた。

また、保護者のコメント欄を設けることで、家庭でも生活習慣について話題にしてもらい機会になり、子どもの生活の改善点に気づいてもらうことができた。

課題としては、ゲームやスマートフォン、テレビの時間を減らすことはできたが、それが学習時間を増やすまでには至っていないという点である。生活リズムをチェックすることで、時間の使い方への意識は高まるものの学習時間を増やすためには別の手立てが必要である。

4 おわりに

昨年度の課題をもとに、今年度は、より効果的に生活リズムチェックシートを活用していく方法について研究を進めている。

家庭での時間の使い方改善が学習に結びつくよう、現在は学習時間に焦点化を図れるように家庭学習の目標時間（10分×学年）を設定し、家庭学習時間をチェックしていくシートを作成するなど、シートの改善とともにその活用法についても研究を行っている。

市内で有効に活用してもらえそうな生活リズムチェックシートをめざしこれからも研究を重ねていきたい。

生活リズムチェックシート

◆自分の目標とする生活リズムを設定しよう！！

就寝時間	時 分	ゲーム・スマホの合計時間	時間	家庭学習の合計時間	時間	今回の自分の意識するポイント
起床時間	時 分	テレビの合計時間	時間		時間	

私の生活リズム

項目	月 日(日)	月 日(月)	月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(金)	月 日(土)	合計
	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
起床時間								
朝食								
就寝時間								
睡眠時間	日～月 時間 分	月～火 時間 分	火～水 時間 分	水～木 時間 分	木～金 時間 分	金～土 時間 分	土～日 時間 分	
家庭学習	時間 分	時間 分						
学習内容								時間 分
学習塾	時間 分	時間 分						
習い事	時間 分	時間 分						
ゲーム・スマホ	時間 分	時間 分						
テレビ	時間 分	時間 分						

自己評価

保護者から一言

一人一人を見つめる授業

教育指導課指導主事 川口 宏美

小学校2年生の国語の授業を参観した時のことです。自分のチャレンジした手伝いについてのスピーチ原稿を作る学習に取り組んでいました。

「昨日は、伝えたい手伝いについて“したこと”をワークシートに書いたね。今日は、友達によくわかってもらえるように“したこと”をもっと詳しく書いていくよ。」

担任の先生の声かけに、真剣な表情でうなずく子供たち。机に広げたワークシートの中央にある枠には、「みそしる作り」「こめとき」「いもうとのめんどろ」など、個々に取り組んできた手伝いの名前が大きく書かれています。それを指さしながら、何の手伝いについて発表するのかを友達に伝え合う姿があちらこちらで見られ、自分がチャレンジした手伝いを友達に紹介することを楽しみにしている様子が伝わってきました。

詳しく書くために提示された手立ては、五感に視点を当てた「6つのアイテム(目・手・鼻・耳・口・心)」です。生活科の学習で観察をする際にも提示し、繰り返し取り組んできていること、また、「水やり」の手伝いを例として、全員で“したこと”を詳しく書く練習をしたこともあり、子供たちは意気揚々とワークシートの吹き出しに、詳しくする言葉を書き始めました。

始めに手を洗う。

耳 「水がビシャビシャはねた。」

きゅうりを切る。

手 「とげがあった。」

食器をタオルでふいた。

心 「きれいになったねっていわれてうれしかった。」

しかし、中には、なかなか始められない子供もいました。子供たちの様子を見ながら教室を回っていた先生から、全員に向けて次のような声かけがありました。

「忘れちゃったなと思った人は、お手伝いでしたことを思い出しながら動いてみるといいよ。」何かを切るジェスチャーを入れながら声をかけたことで、「トントンって音がした。」と嬉しそうに書く子供がいました。また、「～さんも、同じお手伝いをしているから、ここのところ、どんなふうに詳しくしているか、お話ししてきてごらん。」や「～さんが、迷っているのは、こういうことかな。」と、一人一人の様子にていねいに対応することで、迷ったり悩んだりしていた子供が、じっくり考えて自分が納得する言葉を書く姿が見られました。

新しい学習指導要領では、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことの重要性が明記されています。

日々の授業の中で、一人一人の学びを大切にしていくためには、個々の様子をしっかり見つめ、適切な場で適切な支援や指導ができるようにしていくことであることを改めて感じる事ができた授業でした。

研究所だよりの



おだわら未来学舎

～「教職員としての実践力をみがき、教育への情熱を高める」自己研鑽の場に～



今年度も、おだわら未来学舎を年間5回開催します。命を守る教育のまち・地域ぐるみの教育のまち・市民から信頼される教育のまちをめざすための指導力の向上と、「3つの力」と「3つの心」を育成する授業力と専門性をみがくことをめざした研修です。来てくださった講師の先生方からは、「自主研修の場にこれだけ多くの先生方の参加があることはすばらしい」と、お褒めの言葉をいただいています。自己研鑽の場として、ぜひご参加ください。(担当 北村)

第1回 5月15日開催

講師：小林 宏己 先生

「新学習指導要領に沿った学級経営・学年経営

～教師一人ひとりに求められるカリキュラム・マネジメント～

<参加者の声>

「子どもを第一に考えるために、教員自身が受身になってはいけないということを感じました。」

「+1をするなら-1を、+1より×1、研究授業は、参観者が一番大変なくらい参観する必要性、という言葉が印象に残りました。」



第2回 9月21日開催

講師：永田 繁雄 先生

「道徳授業の充実を図るために

～子どもの多面的・多角的思考を促す指導の工夫～

<参加者の声>

「発問の立ち位置が分かってスッキリした。具体的にどのように導入すると子どもたちの思考を深められるか、よく考えたいと思った。」

「道徳の教科化に向けて、自分自身評価が難しいと考えていましたが、お話を聞いて、気持ちがずっと軽くなりました。」



《これからの未来学舎》

会場は全て小田原市役所7階大会議室、時間は18:30～20:00です。

回	開催日	講師・内容
第3回	平成29年10月12日(木)	腰塚 勇人 先生 「命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～」
第4回	11月10日(金)	月森 久江 先生 「教室でできる特別支援教育とは ～認知特性に応じた支援法～」
第5回	平成30年 1月12日(金)	小松 由佳 先生 「K2への登頂 ～情熱が可能性を生み出す～」

*参加者はその都度募集しています。申し込みは学校単位、個人単位のいずれでも結構です。

研究所だより



平成29年度 教育講演会 「弁当の日」で何が育つのか ～学校と家庭・地域との連携から～

子どもが作る「弁当の日」提唱者 竹下 和男 先生



平成29年度の教育講演会に、竹下和男先生をお迎えし、「『弁当の日』で何が育つのか～学校と家庭・地域との連携から～」という演題でご講演いただきました。

「はなちゃんのみそ汁」等、数々のスライドショーは胸が熱くなりました。

“愛された子供はすてきな大人になること”“親が子にしてやれること”“勝ち組にするために「あなたは自分のことだけしていればいいのよ」と子供に料理を作らせなくなったことの影響”“人間脳が育っている人はいじめをしない”等、深く考えさせられました。

「過去のやり直しはきかないが、未来は自分で作っていかれる。」という先生のお話のように、自分自身が“このままではまずい”と思ったら、考え方を正していかれるきっかけになったのではないのでしょうか。(担当 秋山)



人は置かれた環境に適應する

- ・「はなちゃんのみそ汁」
- ・この子たちの孫、ひ孫まで残ることを教えよう。
- ・何万年も前の祖先が、自分の子供の食事を作って食べさせることが快感というプログラムを能の中に入れ、それを続けてきた人の子孫が命をつないで生き残ってきた。
⇒喜んでもらうのが楽しい。子育てが楽しい。料理作りが楽しい。となっていけるようにしましょう。
- ・子供を台所に立たせることで、作ることに喜びを感じてほしい。
- ・そのように育てられたからと人のせいにして、自分で環境をかえなさい。
⇒過去のせいにして、今からできることを自分で取り組んでごらん。

教師は成長し続けてほしい

- ・今日の自分をこわさないで明日の自分はでてこない。
- ・子供は人を見抜く力が強い。
⇒「あの先生は、昨日と違う今日の先生だ。」と感じている。
- ・竹下先生の話聞いて、うちの学校の生徒が泣いている。
⇒今までは「地域が悪い」「子供が悪い」と人のせいにしてきたが、本当は「自分(教師)が悪いこと」に気づく。
- ・その日、向上したという手ごたえがないと帰らなかった。
⇒竹下先生が現役時代に行っていた。

全ての人的環境が、あなたの成長がうれしいという形でメッセージを送るような地域になっているかどうか

- ・子供の成長を校区で、地域ぐるみで守る。
- ・教師が何をどのようにすればいいのか考えよう。

失敗を恐れずにチャレンジしなさい。
過去のやり直しはきかないが、未来は自分で作っていかれる。





尊徳学習研修会

二宮尊徳翁の実績等を講話や演習を通して研修を深め、教職員の資質と実践力の向上を図るとともに、尊徳学習の推進に役立てることを目的に、教員を対象に毎年実施しています。

今年度も8月21日に元尊徳記念館長の中山幸夫先生に講話や生家等の案内をしていただき、尊徳翁について学ぶことができました。参加された先生方の声の一部を紹介します。(担当 秋山)



- ・尊徳学習についての理解が深まりました。積小為大などの考え方や、二宮金次郎の素晴らしい生き方を子どもたちに伝えていきたいと思います。
- ・小田原市の教職員が一度は受けるべき研修と感じました。
- ・二宮尊徳先生の教えに感銘を受け、深く学ぶことができました。今日、学んだことを今後の教育活動に生かしていきたい。また、自分自身の興味、関心も高めることができた。
- ・小田原のことがわかってよかったです。5つの目をもって、これからも教師として頑張ろうと思いました。
- ・名前は聞いたことがあり、学校に銅像もあるのですが、金次郎の実績を知らなかった。今日の研修で知ることができてよかったです。
- ・感銘を受けました。今回学んだことを、今後の生活の中で生かしていきたいと思います。
- ・尊徳記念館の前を通ることはありましたが、今日学習して積小為大の精神を大切に日々生活していきたいと思います。
- ・これからの教材研究に役に立ちました。
- ・地元で育ったので知っていることが多かったのですが、初めて知ることもあり有意義な時間でした。

見る、感じる、学ぶ、やってみる！

～今後の教育研究所事業を紹介します～

◇**学習指導法研修会** 「教科に関する指導方法について研修を深め、教員の教科指導力の向上を図る」

内容・講師	授業者	月日	場所
授業公開・研究協議 星槎大学大学院 准教授 阿部 利彦 先生	山王小学校 杉崎 順子 教諭	11月20日(月)	山王小学校
授業公開・研究協議 星槎大学大学院 准教授 阿部 利彦 先生	酒匂中学校 平澤 彬江 教諭	11月27日(月)	酒匂中学校

◇**共同研究 「郷土読本『小田原』の改訂に関する研究」「道徳の教科化に伴う指導法と評価に関する研究」公開研究会** 平成28・29年度 2年間の研究の成果を発表する

講師 等	内容	月日	場所
「郷土読本『小田原』の改訂に関する研究」 講話の予定 講師未定	公開研究会 研究発表 講話	平成30年 1月15日(月)	生涯学習 センター けやき
「道徳の教科化に伴う指導法と評価に関する研究」 授業者 物部 典彦 総括教諭(早川小)	公開研究会 授業公開 研究発表・協議	平成30年 1月下旬～2月上旬の予定	早川小学校

* 月日等は変更になる場合があります。詳細については、学校あて文書によりお知らせします。

